

ISLSSL 第 8 回アジア地域大会

国際労働・社会保障法学会 (International Society for Labour and Social Security Law) の第 8 回アジア地域大会 (実行委員長: 李誠/Joseph S. LEE・台湾労使関係学会会長) が2005年10月31日 (月) ~11月3日 (木) に台北市のホリデーイン・アジアワールドで開催された。女子労働や年金等の人口に関連するセッションがあったが、法学・労使関係論の研究者による報告が大多数であったため、人口そのものに関する報告は筆者による“Foreign Workers and Health Insurance in Japan: The Case of Japanese Brazilians”と題されたもの以外はなかった。

日本からの参加者も花見忠、桑原靖夫、菅野和夫といった先生方によって代表されるような法学・労使関係論の研究者が大多数であった。また、筆者の報告は厚生労働科学研究費政策科学推進研究事業「人口減少に対応した国際人口移動政策と社会保障政策の連携に関する国際比較研究」(主任研究者: 千年よしみ) の成果でもあるが、同研究プロジェクトに委員として参加していただいている岩村正彦 (東京大学) と山川隆一 (慶應義塾大学) の両先生も参加されていた。そのほかにも当研究所の社会保障部門でお世話になっている先生方が少なからず参加されていたが、今回は日本で開催するという含みもあったようである。

なお、11月4日の帰国直前に日本人口学会会員である林季平/Ji-Ping LIN 博士のお世話で中央研究院の調査研究専攻中心 (Center for Survey Research, Academia Sinica) を訪問し、“A Comparative Analysis of Fertility-Related Attitudes and Behaviors in Japan, Korea and Taiwan”と題された講演をして、旧知の人口学者・社会学者と旧交を温めるとともに、JGSS 研究発表会の台湾参加者の一部との2日ぶりの再会を果たすことができた。(小島 宏記)

アルゼンチン国人口統計第三国研修プロジェクト出張報告

日本政府とアルゼンチン政府は1995年から2000年の間、JICA を通じたアルゼンチン国人口統計プロジェクトを実施し、同国の国勢調査実施と集計分析に関する援助事業を実施した。その後、再びアルゼンチン国側から南米地域の国々を対象とした人口統計に関する第三国研修の要請があり、アルゼンチン国立人口センサス院 (INDEC) を実施機関として2003年から2007年にわたる人口統計に関する協力プロジェクトが実施されている。

2005年度に実施された特別テーマは「各国センサスの準備・実施状況」、「人口分析手法」、ならびに「将来人口推計」等で、日本ならびにアルゼンチンの統計専門家を講師として10月12日より同月18日まで研修が実施された。研修には南米諸国から、ボリビア、ブラジル、チリ、コロンビア、ペルー、パラグアイ、ウルガイ、ならびにアルゼンチンの8ヶ国の21名が参加した。

当研究所から11月3日から13日の間、高橋重郷が専門家講師として参加し、研修内容のうち「将来人口推計」の講義・演習を担当した。なお、来年度以降の講義内容は、労働力・雇用統計などの研修が企画されており、今後とも人口統計に対する諸外国から援助協力要請があり、人口研究専門家の派遣が期待されている。(高橋重郷記)